



みつけた!



江戸時代に再建された豊川稲荷の法堂

日本三大稲荷の一つに数えられる豊川稲荷は、正月には多くの参拝客が訪れ、総門を通過して左に折れ大本殿に向かう参道は人の列でつながります。その総門から真っすぐに向かい山門を抜けると豊川稲荷の正式名である豊川閣妙厳寺ほつとつの法堂があります。法堂とは禅宗における本堂のことで、嘉吉元（1441）年に創立された妙厳寺の中心となる建物です。その法堂が江戸時代に再建されたものであることをご存知でしょうか。

法堂は何度が火災にあい、そのたびに再建されました。現在の建物は天保年間（1830～1843）に完成したもので、総ひのき造りの二重屋根で重厚な雰囲気があります。正面には「妙厳禅寺」と書かれた額が掛かり、堂内には本尊である千手観世せんじゆかん菩薩像が安置されています。

3月20日（火）には、境内で「第3回豊川いなり寿司フェスタ」が開催されます。当日は、豊川いなり寿司食べ比べ選手権などの催しがありますので、江戸時代に再建された豊川稲荷の法堂を見がてら、ぜひお越しください。

